

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801172		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム あおば		
所在地	福岡市東区青葉7-13-41		
自己評価作成日	平成22年8月14日	評価結果確定日	平成22年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>原土井病院グループの施設で病院との連携の下、健康管理に努め生活支援を行っている。近隣にグループの関連施設があり情報交換、協力体制にも努めている。施設内では、毎食の食事作りを職員が担当し、買物・調理等出来る限り利用者の方と一緒にいき家庭的な雰囲気と食事を楽しんで頂いている。利用者の方が安心して生活出来る環境作りを行い、家族、地域の方にも参加して頂き、毎日の生活が安全で楽しく豊かになるよう支援している。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体法人は、地域医療や介護事業を展開する医療法人である。特徴として、医療や他のサービス事業所との連携は勿論のこと、1ユニットならではのきめ細かい支援や職員の定着率、外部研修への参加や資格の取得等の実績がある。本年度は、昨年の評価や実地指導を受けて、スプリッカーの設置や、トイレのリフォーム等、設備改善に向けての実績が見られた。利用者の介護度が高くなった分、個別支援がなされている。特に食事は、ゆっくり時間をかけながらも利用者の殆どが完食している。三食の全てをホームで調理している事も影響しているものと思われる。今秋は、改築工事のために、ホーム全体が一時転居する予定があり、現在は準備に取り組んでいる。今後とも更なる、地域、医療、行政との発展が期待できる事業所である。</p>
--

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交流の下で、家庭的な環境と一人一人を大切に作る支援を柱に置いた理念を作り、理念に沿った支援をするよう日々励んでいる。	法人の理念に加えて、開設時に職員全員で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げている。家庭的な環境や利用者本位のサービス提供、地域との連携等を理念に掲げ、掲示やその都度の確認により、日々実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員・組長との連絡を図り地域の情報、施設の情報交換を実施している。	公民館、地域、ホームの行事等、定期的に地域住民との相互交流の機会を確保している。本年度は本事業所単体の夏祭りを開催した。また、町内の子ども会の廃品回収への参加や、散歩時の挨拶等、日常的なかかわりを通じて親交を深めている。	本年度は本事業所単体での行事等に取り組みました。敬老会等、地域行事と時期が重なるイベントについては、内容や日程の調整等についても協議し、より充実した交流の機会となる取組みを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人を理解して頂けるよう地域の方にお話し、事業者が協力できることには参加出来る体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一回運営推進会議を開催し、利用状況報告、活動状況報告を行い、評価、要望、意見を頂いている。運営推進会議で頂いた意見は次回の取り組みや、施設の改善に活かしている。	家族、民生委員、地域包括支援センター職員を招いて2か月ごとに実施している。内容は、ホーム行事や利用者の状況報告や地域行事等の情報交換、非常災害対策等が協議されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員との連携を図り、施設の状況や取り組みを伝えている。	包括支援センター職員による運営推進会議時での勉強会や質疑・応答の時間を設けている。また、市主催の研修への参加や、日常的な支援に関する相談等を通じて、連携する機会を確保している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加した職員よりミーティング時に報告、資料回覧し全スタッフ周知するよう努めている。昼間玄関の施錠はしていないが、鈴を取り付け安全には配慮している。	言葉かけや行動制限等、支援の中で利用者の尊厳を脅かすような行動を行っていないか等について意識するように努めている。本年度は、外部研修受講や事業所全体で勉強する機会を確保しながら、支援の実践に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には毎年参加し、学んだ職員が全スタッフに伝達、報告することで虐待防止に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、研修に参加し成年後見制度について学ぶ機会を設けている。また、運営推進会議の議題として取り上げ、地域包括支援センター職員に講師を依頼しご家族、地域の方と一緒に勉強会をした。	運営推進会議時に、地域包括支援センター職員による制度の概要や具体的な利用手順、連絡先の説明を行うなど、成年後見制度等について学ぶ機会を設けた。前回の評価を受けての改善項目である。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基に、契約や解約時の説明を行い、不安や疑問の無いよう努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のご家族アンケートや、毎日の生活の中で頂く利用者、ご家族からの意見、要望は大切に受け止め反映するよう努めている。また、介護サービスに対する苦情相談窓口は施設内に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者会議、ミーティングで意見や提案は行い反映されるよう努めている。	職員ミーティングや個別面談を通じて、意見や要望を汲み取れるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談やアンケートにより職員の意見、要望等を理解するよう努め、個々の実績や勤務状態の把握を行っている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり性別、年齢、国籍などを理由に排除せず、本人の意欲、人間性、介護者としての適性を重視している。事業所内では、個々の能力が發揮できるような環境作りにも努めている。	職員は法人採用としている。原則としてヘルパー2級取得者を対象とし、年齢や性別、経験の有無等の制限は設けず理念への共感や人間性等を重視している。入職後は、資格取得やプライベートの充実に向けて定時退社や勤務調整等に努めている。この過程において、介護福祉士等の資格習得の事例がみられた。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部・内部研修に参加することで、職員全員が人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	地域の人権学習会へ管理者、職員が交代で参加している。加えて、事業所内でも受講報告会を開催するなど、高齢者や福祉に限らず、幅広いテーマにおいての人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加により一人ひとりのスキルアップを図り、参加した職員が研修発表を行う事で知識、情報を全職員で共有している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し他施設との情報交換、勉強会の開催を実施し、サービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接、入居時に本人の希望、要望等を可能な限り聞き取り安心できる環境作りと信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、家族の要望・希望を理解した上で、家族と一緒に考えながら不安を解消できるよう信頼関係の構築に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い情報収集し、必要なサービスを理解した上で支援するよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活する中でお互いを認め合い、助け合いながら暮らす関係を作るよう努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に支援することを心がけ、報告・連絡・相談は随時実施するよう努めながら関係作りを行っている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を大切に手紙、電話、面会等必要に応じた支援に努めている。	利用者が継続してきた趣味活動や習慣等を通じて、馴染みの人達と交流する機会が保てるように支援している。また、他施設へ入所された利用者が、再度本施設へ入所された事例もみられた。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・行事等に参加して頂く事で関係作りを行い交流を持つことで気軽に話が出来る場を設け孤立しないケアに努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ退去後、ご家族の希望により再入居された方がいる。必要に応じ退去後も相談、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が自分の思いを表現出来る環境作りと、意向を聞く姿勢に努めている。常に、本人本位の支援を検討している。	契約時の聞き取りや、アセスメントの概要をまとめ、記録や会議等での周知や情報交換を行い、職員全員で利用者の意向を把握している。入居後も、日常の会話や様々な場面を通じて、本人の思いを推し量れるように取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は本人、家族、関係機関等より収集し入居後も安心して生活出来るよう把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、生活チェック表等を毎日記録し、職員全員が把握することで細かな変化も見逃さないよう努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い課題やニーズを検討し、本人、家族の意見を反映した介護計画作成と定期的なモニタリングを実施している。	担当職員と計画作成担当者が、本人の希望や家族の意向等をまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。毎月のカンファレンスにて、モニタリングや支援手順の確認を行い、3ヵ月毎に評価・見直しを行っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人観察記録に毎日の様子を記録することで情報の共有を図っている。この記録は介護計画の見直しにも活用している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内で困難な場合には、本社や他事業所の力も借りながらサービスの実現が出来るよう支援する体制がある。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、消防、地域包括支援センター、ボランティアなど地域の方と協働しながら安全で豊かな生活になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診でかかりつけ医との連携を図りながら、必要に応じての往診、受診を実施し本人、家族の希望を大切にすることを支援している。	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家族が入居後の主治医を選択している。協力医療機関への受診介助、歯科医師の定期往診等も含めて、地域の各医療機関とも連携をとりながら適切に支援している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に一度の訪問看護で看護師に状態説明や相談を実施し健康管理に努めている。特変時には看護師よりかかりつけ医に報告があり指示をもらっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も病院の相談員、かかりつけ医と連絡を取りながら早期退院に向け取り組んでいる。協力病院が入院先になる事が多く、入院後の情報交換にも努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方針を説明し、状態変化が見られる時には、本人、家族、医師との連携を図り、関係者と支援できる体制に努めている。	重度化や看取りについては、契約時に予め対応できる方針を説明した上で、利用者、家族の意向を確認している。利用後は身体状況に応じて主治医や関係者で協議し、情報や支援方針を共有しながら支援する体制がある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・急変時のマニュアルを作成し職員全員が対応できる体制を作り、救命講習を受講し訓練を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を実施し、消防署からのアドバイスも受けている。運営推進会議等で地域の方にも協力をお願いしている。	災害対策については以前より、運営推進会議でも協議され、地域への協力依頼と同時に、年に数回、消防設備の点検や避難訓練が行われている。今年度は、設備強化や災害時の課題の協議等、対策に向けて活発な取り組みが見られた。	スプリンクラーの設置や改築に向けて非常災害時対策が計画されていました。今後とも継続的な取り組みと同時に、地域全体での協力体制の構築に向けて取り組まれていくことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や権利擁護の研修会で学んだ事を活かしたケアの実践に取り組んでいる。一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した声かけを心がけている。	職員への基本的な接遇や個人情報保護の取扱い等は、入職研修時に指導を行い、利用者に関する記録は事務所に管理している。また、適宜職員への指導等を実施し、プライバシーを重視した対応や表現に配慮しながら支援にあたっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いが自由に表現出来る環境作りと職員の対応に努め、自己決定を大切にする支援を行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、一人ひとりのペースを大切に過ごして頂いている。その人らしい生活のため、個別ケアでの関わりも大切にしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じ訪問理美容を利用して頂いている。身だしなみは本人の希望に応じながら季節感を大切に、外出時にはおしゃれを楽しんで頂くよう配慮している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週メニューを貼りだし、献立の内容を紹介している。一人ひとりの好き嫌いを把握し食事が楽しく出来るよう心がけて、利用者と職員と一緒に準備や片付けを実施している。	調理、準備、片付け等を、利用者と職員が協力して行っている。当日の昼食は、すき焼きと他品目の惣菜がならび、職員と同じテーブルを囲んで、和やかに味わう光景が見られた。時間をかけながらもほとんどの利用者が、しっかりと食べられていた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量には個人差があるため、一回の食事摂取量が少ない方は間食で補うなど工夫をしている。水分も好みの飲み物で脱水に注意しながら支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔状態を把握し、一人ひとりのレベルに合わせた支援を実施している。義歯、口腔ケア用品は定期的に消毒し衛生面にも配慮している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し失敗のない支援に努めている。紙パンツ、パットの着用は必要時に行い状態を常に観察している。可能な限り自立排泄に向けた支援を心がけている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、介護計画書に位置付け、個別に支援している。この過程を経て、オムツからポータブルトイレへの誘導等の成果事例も見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と排便チェックを行い、繊維質の多い食材やヨーグルト等を取り入れ便秘予防を実施し、個々の状態にも合わせ取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	冬場週4日、夏場週6日と入浴日を決めているが、個々の体調や気分により入浴を支援している。	日曜日以外は毎日入浴の準備を行い、利用者の希望や意向、心身状況等に応じて対応している。入浴を好まれない場合でも、タイミングを見計らった声掛けや清拭、シャワー浴、足浴等工夫しながら定期的な清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて休息や就床を支援している。寝具は個人の使い慣れた物を持ち込んで使用して頂き、安心して睡眠できるよう配慮している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により薬の管理はされており、薬の種類、内容の変更があった時には、薬剤師、看護師、介護職と全職員が把握する体制に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活を理解した上で、毎日の生活が充実し豊かになるよう役割作りをしながら、個々の力が発揮できるよう支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出願望の強い方はその時々につき添い支援している。また、月1回程度全員での外出や外食を実施し季節感を楽しんで頂き、ご家族、地域の方にも協力をお願いする事がある。	花見や行楽など毎月の行事外出の他にも、日々の散歩や日光浴等、天候や利用者の状況に応じて、なるべく戸外へ出かけられるように支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持する事が安心感につながる方もおり、本人が現金所持をされている事を理解している。現金所持が困難な方でも必要時は立替払いで処理できる体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話連絡希望があればその都度支援している。また、定期的到手紙が届く方には職員と一緒に開封し拝読後は保管している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは通年、快適に過ごせる室温と換気に努めている。また、季節感を大切に毎月貼り絵を作成、行事や外出の写真を貼り楽しんで頂いている。	リビングの天井が高く、のびのびと広い空間になっている。本年度は、館内の仕切りや壁、トイレ等を改修し、使い勝手の良い構造に向けてリフォームする予定である。去年の外部評価を受けての改善事項でもある。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に思い思いの場所があり、落ち着く空間で自由に過ごして頂いている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使い慣れた物を持ち込んで頂いている。本人、家族の意向を大切に特に危険がなければ自由にレイアウトし居心地のよい空間を作られている。	居室の窓が広く、明るいフローリング仕様で、ベッド、クローゼット等が設備されている。筆筒やテレビ等、馴染みの物を利用者の意向や身体状況に応じて配置し、その人らしく、ゆっくりと落ち着いて過ごせるように工夫されていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、段差に配慮はしているがスロープがあるため安全への気配りは常に意識するよう心がけ支援している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		平成22年9月21日			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			